

平成29年度 四ツ葉園事業報告

1 全般的事項

大規模改修の工事期間中の生活環境が変化の中で、安全で快適な暮らしを継続できることを重要課題として支援を行った。

2 各事業実施状況

(1) 施設入所支援

① 利用者支援

・大規模改修による環境の変化を、利用者と職員が共に乗り越える意識を持ち、支援を行った。仮設居住棟に移動時は、寒さ対策を重点的に行い体調管理に気を配った結果、体調不良者もなく冬期間を乗り切ることができた。

② 安全・安心な暮らし

・ヒヤリハット事案を丁寧に考察、共有に努め、職員全体で事故防止に取り組んだ。
また、リスクマネジメントの研修を受講・復命を行い、職員全体で安全管理への意識を高め、事故防止への取り組みを継続的に改善、発展させることの必要性を学んだ。

(2) 生活介護

日中活動

① 作業グループ

・しいたけの原木栽培は、利用者も興味を持ち、活動に広がりを持つことができた。また、収穫した生しいたけを通所事業所へ提供し、食品加工品の活性化に協力できた。

② 療育グループ

・生活リズムの安定を目標に歩行運動を中心に行った。また、音楽療法を実施し、集団で楽しめる雰囲気作りを意識して取り組んだ。

・外部から作業療法士を招き、体力や残存能力を保持するための動きや、興味、意欲につながるメニューについてアドバイスを求める機会を全体で計6回実施した。

3 共通支援事項

(1) 健康管理・給食

・感染症流行期前に、課の会議にて、感染症対策マニュアルを基に感染予防と罹患者があった場合の対策を事前共有する機会を設定し、感染予防に取り組んだ。

(2) 地域交流

・納涼祭や園祭では、上市町社会福祉協議会を通してボランティア団体の協力を得た。その際、利用者との交流の他、発表の場を覗いてもらうよう働きかけをし、施設の取り組みや障がいを持つ人を理解してもらうよう努めた。

・上市町のボランティアスクール(小中高生)では利用者、職員が継続して参加、また、

地域や町のイベントに参加、ステージ発表するなど、様々な団体・人とのふれあい、交流を深めた。

(3) 職員研修・人材育成

- ・年間の研修計画（園内・外部）に基づき、職員の専門性の向上に向けて研修を実施した。また、今年度より管理者との面談を通じて個々の経験年数に応じた業務目標について共通認識を持つことにより、目標達成に向けて取り組むことができた。
- ・強度行動障害研修（基礎・実践）に参加受講し、行動障害への理解と支援方法について学ぶ機会を段階的、計画的に設定した。

4 今後の課題

(1) 日中活動の活性化

- ・目的や効果を明確にし、興味が湧くように内容を工夫する。また、ライフステージに見合った活動内容を充実する。

(2) 組織力の向上

- ・職員一人ひとりが資質の向上について取り組み、支援者全体をスキルアップする。
また、交代制勤務上、課のコミュニケーションの一層の円滑化とモチベーションの維持、向上を図る。

平成29年度 新川会グループホーム事業報告

1 ホームの利用状況

	定員	現員		就労	就労継続 支援 A	就労継続 支援 B	その他	
		男性	女性					
つつみだにの家	9		8			* 8		* 工房よつば
第2つつみだにの家	7	7				* 7		* 工房よつば
かわはらだの家	7	7			3	* 2 1	1	* 工房よつば 富山型デイ
まえざわの家	7	4		2		* 2		* 雷鳥苑
計	30		26	2	3	20	1	

2 支援の体制

4棟のグループホームを利用者の自立度（社会生活歴及び生活能力）に応じて2つのタイプに区分して支援を行ってきた。

① つつみだにの家では、休日の日中に生活支援員（バックアップ施設職員）を配置して、第2つつみだにの家の利用者とともに、一定の声掛けや見守り（昼食、余暇活動）を行い、必要な支援を継続した。

なお、かわはらだの家の利用者のうち1名は、無届外出の傾向があるため、休日の日中はつつみだにの家で支援を行った。

② まえざわの家、かわはらだの家では、日常生活（休日を含む）は本人の選択（外出、昼食等）に委ねている。

3 成果と課題

① 共同生活と自己管理

・当番や係を明示しホームでの役割と責任感をもてるよう促した。生活の主体であるという意識には個人差があり、一人ひとりに応じて声かけや励ましが必要だった。

・居室の管理（整理整頓・清潔保持等）

適宜声かけや確認を行ったが、不必要な物は片付け、整理するという習慣はなかなか身につけていない。

② 自己管理の利用者の休日・余暇及び金銭の管理

・各自それぞれ毎月の小遣い内で使用できるようになり、小遣い帳の残額等も合うようになっている。休日の外出やスポーツ、趣味の時間等の充実が課題である。

③ つつみだに・第2つつみだにの家における休日・余暇の支援

・晴れた日は家庭菜園、除草、散策（運動公園、フライングディスクの練習）に誘う。余暇時間は個人の趣味（読書、編み物、写経）の活動となるが、趣味がない人もお

り、興味、関心を引き出す働きかけが必要である。

計画的に外出の機会の設定（イベント参加 会食・ショッピング等）をした。

4 管理・運営状況（4棟）

① 定期打合せ（4棟毎に月末開催）

利用者一人ひとりの自立の程度や状況について、世話人さんとの話し合いにより、一貫した関わりを続けるように努めた。また、より具体的に係や当番のやり方を明示するよう努めた。

② 健康と安全

・定期検診 法人内の就労継続支援Bの利用者は、通所の事業所で受診及び予防接種実施。その他は、就労先事業所で受診し、予防接種は任意で受けた。

・風邪等の突発的な受診、病状や経過の把握等、対応に時間を費やすことがあった。今冬、つつみだにの家、第2つつみだにの家は、インフルエンザ罹患者が5人発生し、終息までに9日間要した。

・避難訓練の実施（年2回）

③ 給食・栄養管理

・業務日誌の献立について、栄養士から助言を受けた。

④ 家族との連携

・家族との関係が希薄だったり、事情を抱えるケースもあり、家族との連携は取りづらい。

5 今後の課題

① 共同生活のルールを守り、自己をコントロールする力をつけながら、生活の主体者としての自覚を育てる。

② 余暇のメニューを提供していく中で、いつかは自主的に余暇を選択できるように支援する。

③ 短期入所居室を活用していくためのPRをする。

④ サテライト型グループホーム、または自立生活援助サービスの検討

（グループホームからアパートや公営住宅への移行希望の利用者に対して、見守り隊を維持しながら、本人の望む生活に近づけるよう支援する。）

平成29年度 地域生活相談室事業報告

1 全般的事項

地域で暮らしている障害者（児）と、その暮らしを支えている家族に対し、相談を通して生活に必要な情報の提供と、それに伴う支援を行った。

2 計画相談

- ① サービス等利用計画の作成の更新（新規）の時期（3月）に集中、そのため半年後に行うモニタリングの時期が9月に集中する。また、共働きの家庭での面談を時間外に行うことが多い。
- ② 滑川・中新川圏域に相談支援事業所が2ヶ所しかないため、特に障害児相談は集中しやすく、発達障害児の放課後等デイサービス利用に係る相談が増えている。
- ③ 30年度から一人の相談支援専門員の抱える担当件数が設定され、またモニタリング実施標準期間の見直しによりモニタリング頻度が高まった。そのため、相談支援専門員の担当件数を計画的に分担していく必要がある。

3 一般生活相談

- ① 利用者や保護者がサービス利用にあたってキャンセルや事業所の変更をする等で、サービス事業者との間で調整に時間を要する。
- ② 生活環境が不衛生等であつたり修理が必要な場合、相談室で対応したり、業者への取り次ぎを行った。
- ③ 介護保険サービスへスムーズに移行できるよう、担当者会議で本人の情報等を引継ぎし連携した。

4 障害児相談

- ① 保育所入所前の子育てサークルに定期的に招かれて、ミュージック・ケアを実施（3カ所7回）
- ② 「星の子サークル」（立山町）のサークル活動を支援（習字、絵画、トランポリン、クリスマス会）
「親子療育キャンプ」は日程があわず、実施できなかった。

5 その他

- ① 権利擁護
 - ・ 成年後見制度を利用しているケースは、定期的に後見人に報告や意見を得て支援
- ② 地域ネットワークの構築
 - ・ 障害者地域自立支援協議会への参画
障害者自立支援協議会での各部会活動において、困難事例について問題解決のための事例検討行ったり地域課題を抽出し共有した。そのなかで、地域で暮らしている障が

い者とその家族の支援の充実のため、行政、関係機関及びサービス事業所とネットワークの構築に努めた。

- ・地域交流と社会啓発

地域の障がい者の交流活動やイベントに参画し、障がい者への理解を促進する啓発活動に協力している。

1 全般的事項

地域で生活する知的障がい者に、日中活動とふれあいの場を提供するとともに、一人ひとりが自立に向けて意欲と自信を育めるように支援を行いました。

2 各事業の実施状況（経過）

（1）生活介護

- ・生産活動に主力を置き、ペットボトルの分別とプレス（立山町受託）F社（ダンボール組み立て）、に取り組みました。また新たに2名、生産活動に取り組むことができるようになりました。
- ・ミュージックケアやおやつ作りを毎月1回取り入れたことで、楽しんで活動に参加する様子が見られました。
- ・課題として、受託作業の納期に左右されるため自主作品に関わる時間の減少や、創作活動の時間が少なくなっていました。

（2）就労継続支援B

- ・A社（野菜加工）及びH社（パンフレットの差し込み）の受託作業を中心に行いました。A社に関しては、新たに3名の利用者が活動に参加できるようになり、工程、作業方法を見直したことで受託量（140キロ）を増やすことができました。
- ・畑作業に関しては、トマト、ネギ、大蒜を中心に作付けを行い、ネギは（50kg）各施設の苑祭を中心に販売を行いました。またニンニクは250個栽培し、昨年度より加工し黒大蒜として試作品（40個）を作り、一部は販売することができました。
- ・課題としては、大蒜の栽培数を増やし加工品の生産量を増やす。そのため受託作業との調整を図り、畑作業や野菜加工などに取り組む時間を作る必要がある。

（3）その他

① 地域交流

- ・夏まつりや雷鳥苑祭といった行事には地域のボランティア団体（2団体・50名）や学生ボランティア（3名）の参加協力を得ることができた。
- ・立山町社会福祉協議会を始め、関係団体の事業やイベントに参加し交流を持つことができた。

② 保護者との連携

- ・年3回の懇談会を行い、本人や家族の思いを確認し個別支援計画に反映させました。また必要に応じ家庭訪問（3件）を行い対応しました。

③ 職員研修

- ・職員のスキル向上及びサービスの質の向上を図るため法人内研修（クレーム対応、コーチング理論、リスクマネジメント等）や、福祉協会等の研修会に参加し自己

研鑽に努めました。

3 今後の課題

(1) 農福連携事業

- ・新川会の施設全体で雷鳥苑の畑でラベンダー栽培に取り組む。活動の定着を図り、職員、利用者ともに農業に対する理解とスキルアップを図る。

(2) 自主製品づくり

- ・畑でにんにくを栽培し、加工品(黒ニンニク)の生産、販売を目指す。
- ・畑で栽培した野菜した野菜を使って乾燥野菜の試作品づくりを行う。

(3) 職員のスキルアップ

- ・定期的にセルフチェックを行い、自己の支援方法について振り返る機会とする。

また、積極的に法人内での研修や、福祉協会等の研修に参加し自己研鑽に努める。

平成29年度 さつき苑事業報告

1 全般的事項

利用者が日々仕事や訓練に楽しく元気に取り組み充実した1日を過ごし意欲と自信を培うよう支援を行った。

2 各事業の実施状況

(1) 生活介護

① 活動状況

ア 創作的活動

- ・集団制作として富山県をテーマに大きな(A3、9枚サイズ)貼り絵に取り組んだ。
- ・牛乳パックでの再生和紙作りに継続的に取り組んだ。

機能訓練

- ・アイロンビーズを使用して季節やテーマに合わせた製品を作った。
- ・木工品のストラップ付けなど細かな作業にも継続的に取り組むことができた。

イ 生産活動

- ・アルミ缶のリサイクル活動を継続して行ったが、回収場所の撤退により活動の時間数を減少させることとなった。
- ・木工作品では、コースターやキーホルダーなど新たな形や柄の商品をつくることができた。

② 活動の評価(成果)等

- ・木工作品では、国会議事堂での販売につなげることが出来た。(H29.11~H30.3 約80個売上 現在も販売中) また糸鋸作業に参加できる利用者が増えた。
- ・新たにヒノキの木くずを利用し芳香品として加工した商品を年間100個程販売した。
- ・アイロンビーズは、アルミ缶以外の収入源として見込める商品に仕上がり、即売会やイベントで売り上げを得ている。

③ 今後(次年度)の課題

- ・糸鋸作業の技術向上につなげ、切った後の磨きまで一連の工程を行えるようにする。
- ・年齢や体調面等、一人ひとりにあわせた運動量を見直し、心と生活リズムの安定を図りたい。
- ・商品化したアイロンビーズは、販売を目標に作業意欲の向上につなげ、全員に賞与の支給を行う。

(2) 就労継続支援B型

① 活動状況

ア 受託作業

- ・T○社(リテーナ揃え)の作業を軸に、R社(チューブ取り付け)やTe社(バリ取り)との調整を図りながら作業内容に適した利用者配置にすることで効率よく行い、ほ

ば即日完了した。

イ 自主製品

- ・当帰は苗が小さく根が育たなかった。またラベンダーも栽培量が少なかった。
- ・乾燥機を利用して、畑で栽培したショウガやさつまいも、柿などの乾燥食品づくりに取り組み、新川会職員や保護者との試食会を行った。

② 活動の評価

- ・ラベンダーの収穫量が減ってしまい、販売数が約40%ダウンした。

③ 今後（次年度）の課題

- ・乾燥食品の試作品づくりを継続的に行い、生産、販売が可能な量の確認を行う。
- ・受託作業の見直しを図り、畑作業や自主製品に取り組む時間、参加できる利用者を増やす。

(3) 共通領域と内容

① 身近生活の自立と支援

- ・排泄では本人に合わせた促しを行なうことで、排泄の習慣づけを行った。
- ・活動前には意識的に身だしなみを整えられるよう、鏡の利用や声をかけて気づかせる等の働きかけを行った。

② 健康管理と健康指導

- ・日頃よりうがい、手洗いの励行に努めた。風邪等の症状がみられた場合にはマスクの着用を促し、感染拡大とならないよう努めた。

③ 食事・給食

- ・四ツ葉園より給食を運搬 25名が給食を利用 5名は弁当を持参
- ・嚥下やその日の体調に合わせてキザミ食の大きさを変更するなどの対応を行った。

④ 地域行事への参加

- ・地域の行事や公民館イベントに積極的に参加し、製品の販売やポップコーン等の販売を行った。(8月、9月、10月、11月、2月) 恒例の出店となっているため、好評を得ている。

ふれあいウォーキング(7月)、ふれあいフェスティバル(11月)

(共催：上市町社会福祉協議会)に参加

劔岳雪のフェスティバル(2月)

⑤ 安全な環境づくり

- ・建物施設内外の点検を定期的に行い、また周辺環境整備に努めた。
- ・消防計画のもと通報、避難訓練と災害訓練を実施した(5月 11月)

⑥ 家族との連携

- ・保護者、また本人の思いを聴いて個別支援計画を作成し、日頃の変化に対応できるよう保護者とこまめに情報交換しながら支援に努めた。朝や帰宅時に様子を引き継ぐことで、些細な変化や気づきを大切に全体で支援することができた。
- ・毎月の施設便り(さつき苑たより)を通して施設の情報提供に努めた。掲載した写真

が欲しいとの要望があり、利用者の表情の良さを喜ぶ保護者からの声が聞けた。

- ・ 自宅での服薬管理が困難な家庭については、苑での服薬管理を行った。

⑦ サービスの質の向上

- 職員研修
- 富山県知的障害者福祉協会主催の各種研修会への参加
 - 北陸地区知的障害者研究大会への参加
 - 中堅研修への参加
 - 法人内での研修
 - サービス管理責任者研修への参加

平成29年度 つつじ苑事業報告

1 全般的事項

利用者の障害の状況、能力、興味や本人のおもいに寄り添いながら活動場面の提供に努め楽しく、充実した日々が過ごせるよう支援した。

2 各事業の実施状況

(1) 生活介護事業

① 活動状況

創作的活動 古新聞を活用し紙玉を作り絵画(貼り絵)等の共同製作に取り組んだ。成果として制作の過程において一人ひとり役割を持ってもらい責任をもってやり遂げることができた。

生産活動 手芸品作りの工程の一過程を担い製品を完成させ販売を行った。畑作業でじゃがいもやさつまいもを栽培し調理実習の材料として使用した。

機能訓練 毎日の日課の中で天候が良い時は、行田公園内でのウォーキング、天候が良くない日は、社会福祉センター2階を使用しての軽運動を行った。5月には、芝生広場でのミニ運動会等を行った。

② 活動の成果

本人のもっている力や興味のあることを引き出し楽しく活動ができた。

③ 今後の課題

引き続き活動内容において一人ひとりに応じた活動メニュー(強みの考慮、得意なこと)を用意し行っていく。継続して行っていく問題点があれば修正し取り組んで行く。

(2) 就労継続支援B型事業

① 活動状況

Y社(電子部品の組立)、T社(製品のバリ取り)、S社(タオル伸ばし)、F社(海産物商品のパッケージシール貼り)などの受託作業と滑川市からの地下道清掃作業を中心に行った。自主製品として、機織りのコースター、入浴雑貨(しゅわしゅわバスタイム)を製作し販売した。

② 活動の成果

S社のタオル伸ばしを継続して行っていることや、作業方法の理解度が深まり半日で1カート(約2,500枚)の作業量だったものが、2カート(約5,000枚)まで仕上げることができるようになった。

そのためS社(タオル伸ばし)に受注量の増量を依頼したところ1週間に2カート分の仕事量に増えた。

③ 今後の課題

全体の売り上げは、前年度と比較して上がっているものの利用者への工賃支払い(H29年度平均工賃額4,579円)を考えると受注量を増やすことが挙げられる。

具体的には、S社のタオル伸ばし作業を1ヶ月あたり16カート(約40,000枚、受注額80,000円)受注する方向で考えている。作業速度は上がったが、正確性については、課題が残った。

機織りでコースター以外にも創意工夫を加え、トートバッグやネクタイなど商品開発を行い新しい製品を生み出せるよう努める。

一般就労を目指しハローワークなどの関係機関と連携を図り、企業とチャレンジトレーニングを行ったが、慣れない環境や緊張と不安から体調を崩し採用に結びつかなかった。

今年度も引き続き就労意欲がある利用者に対して、就労体験や一般就労に繋がられるように努めていく。

(3) 共通事項

① 活動メニュー

利用者の興味や持っている力また適性に合った内容になっているかなど勘案しながら取り組めるように努めていく。

② 利用者の欠席について

都合により欠席している利用者が一日当たり平均5名おり、その内、長期欠席者の3名については、家庭訪問などを定期的実施しているが利用に繋がっていない状況がある。

③ 行事企画運営

夕涼み会やつつじ苑祭において利用者が中心となって模擬店の運営に携わったり、つつじ苑祭で音楽活動の発表を行った。

④ 商品販売

利用者が滑川市福祉大会、障害者週間、ハーティとやまでの販売に携わった。

なかでも富山市にあるアピアショッピングセンターでのハーティとやまでは、どんどん焼きの調理から販売まで実施した。

平成29年度 工房よつば事業報告

1 全般的事項

働く喜びと自立への意欲につながるよう、生産活動及び自主製品の製作を通して支援を行った。

2 事業の実施状況

就労継続支援B型事業所・定員20名、現員15名

(1) 活動状況

① 生産活動

ア 委託作業

- ・Te社のバリ取りを中心にH社の宿泊アメニティの袋詰めを、継続して取り組んだ。
- ・高速道路SAの花の植え込み作業(1回)に参加した。
- ・銀行のカレンダー巻き(年末)を行った。
- ・上市町のM社とTi社から依頼をうけ、春季限定でよもぎの新芽採集を実施した。

イ 自主製品

- ・「贅沢なよもぎ風呂」「贅沢な桃の葉風呂」のパッケージを一新し、ふるさと納税の返礼品や県内外の雑貨店舗で販売した。
- ・野生型エノキタケの栽培はS農園の指導の下、敷地内で栽培。2月の劔岳雪のフェスティバルで販売した。

② 活動の成果等

- ・バリ取りは作業の都度、手順と折り方を確認しながら行うことができ、クレームはなかった。
- ・「贅沢なよもぎ風呂」は好評を得て、年末には在庫不足となった。
(29年度売上185,177円 販売個数3個入約595個 1個単位60個)
(アミングより追加600個注文いただくが在庫がない状態のため納品できず。)
- ・よもぎ選別作業の丁寧さが認められ、Ti社からお茶用の乾燥よもぎの受注10kgあった。

(2) 今後の目標課題

- ・主力の自主製品である「贅沢なよもぎ風呂」は在庫不足が起きないように、春から夏にかけてはよもぎの採集に力を入れ、保存と加工作業のバランスを見直す。
- ・野生型エノキタケの販売方法やルートを検討し、販売前より即売会の場で「〇月から販売開始」等の事前広告を行うなど認知度を広げる。
- ・年間通して作成できる自主製品の開発。ヘアアクセサリなど女性向けの製品の商品開発。
- ・農福連携事業の開始と定着を目標に利用者の作業能力や体力等の適性を判断し、分担作業を明確にすることで、利用者の達成感や充実感を得られる利用者支援方法の確立を行う。

3 共通的内容

(1) 身近生活

- ・通所時の身だしなみの確認、手洗いや、作業後の道具の洗浄を利用者とともに行うことで、清潔に関して意識できるよう働きかけた。そのため、利用者の意識付けになり、自主的な発言がみられるようになった。

(2) 健康管理

- ・健康増進のため、太極拳教室を月に1回実施した。
- ・毎朝の検温とバイタルチェックを継続し、健康状態の把握と管理に努めた。感染症の流行時には手洗いとうがいを励行した。
- ・3月にインフルエンザ流行し、拡大防止に努めた。

(3) 食事・給食

- ・給食サービスを通して、配膳や片づけ、食事のマナーや栄養について話し合う機会を設けた。食事の残飯が減り、片付け等は利用者同士が声を掛け合い、注意を促したり助け合う姿が見られた。

(4) 安全な環境

- ・毎日の作業後は、作業環境の安全点検を職員が行い、備品の配置に留意した。
- ・日々の清掃の中で、配置や危険への注意を促すことで意識付けができた。

(5) 社会生活支援

- ・行事前には自治会を実施し、意見をだし話し合える時間を設けたことで、行事への積極性や、満足感が得られたとの意見が多かった。
- ・遠足(宇奈月方面)を実施。トロッコ電車体験やスタンプバック作りなど体験できる内容にした。バックをその後日常的に使用する利用者が多くみられた。
- ・社会生活体験(11月)は上市駅から電車移動で電鉄富山駅まで行き、富山市芸術文化ホールでの劇団四季ミュージカルの舞台観劇を実施した。目の前で繰り広げられるミュージカルに目を輝かせ、一緒に手拍子する利用者が多く、また見たい、自分もしてみたいという感想が聞かれた。

(6) 地域交流

- ・地域ふれあい交流会(滑川市東福寺自然公園)に参加して他施設との交流を深めた。

(7) 家族との連携

- ・懇談会や行事の際、保護者の思いを聞きとり支援を行い個別支援計画の作成に反映させることができた。